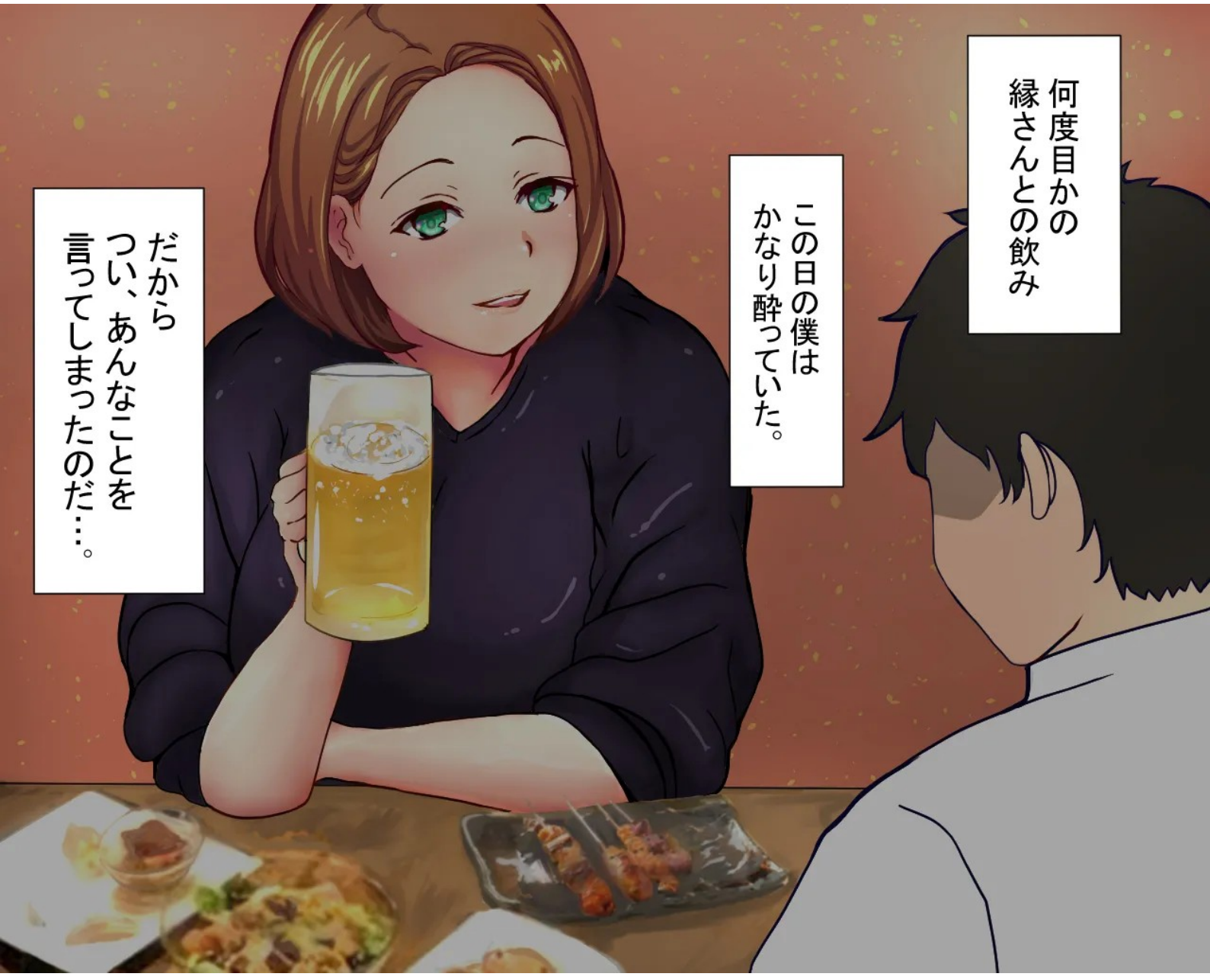
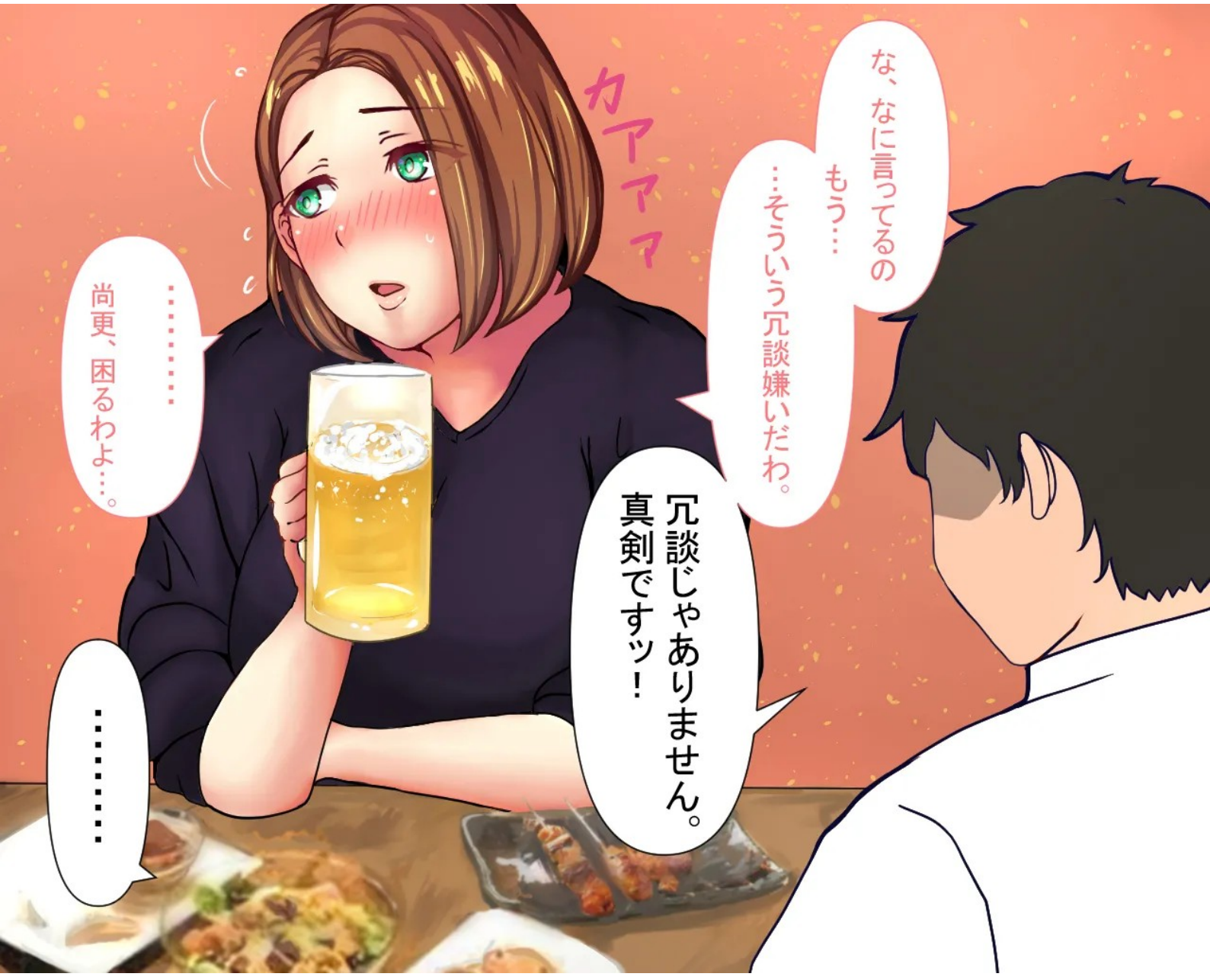
冬季くんは
彼女出来たの？
出来てませんよ…。
何ならXマスも誕生日も
正月も独りで過ごして
未だに童貞ですよ…。
あらら…。いいじゃない
若いんだから
これからたくさん楽しい
ことがあるわよ。

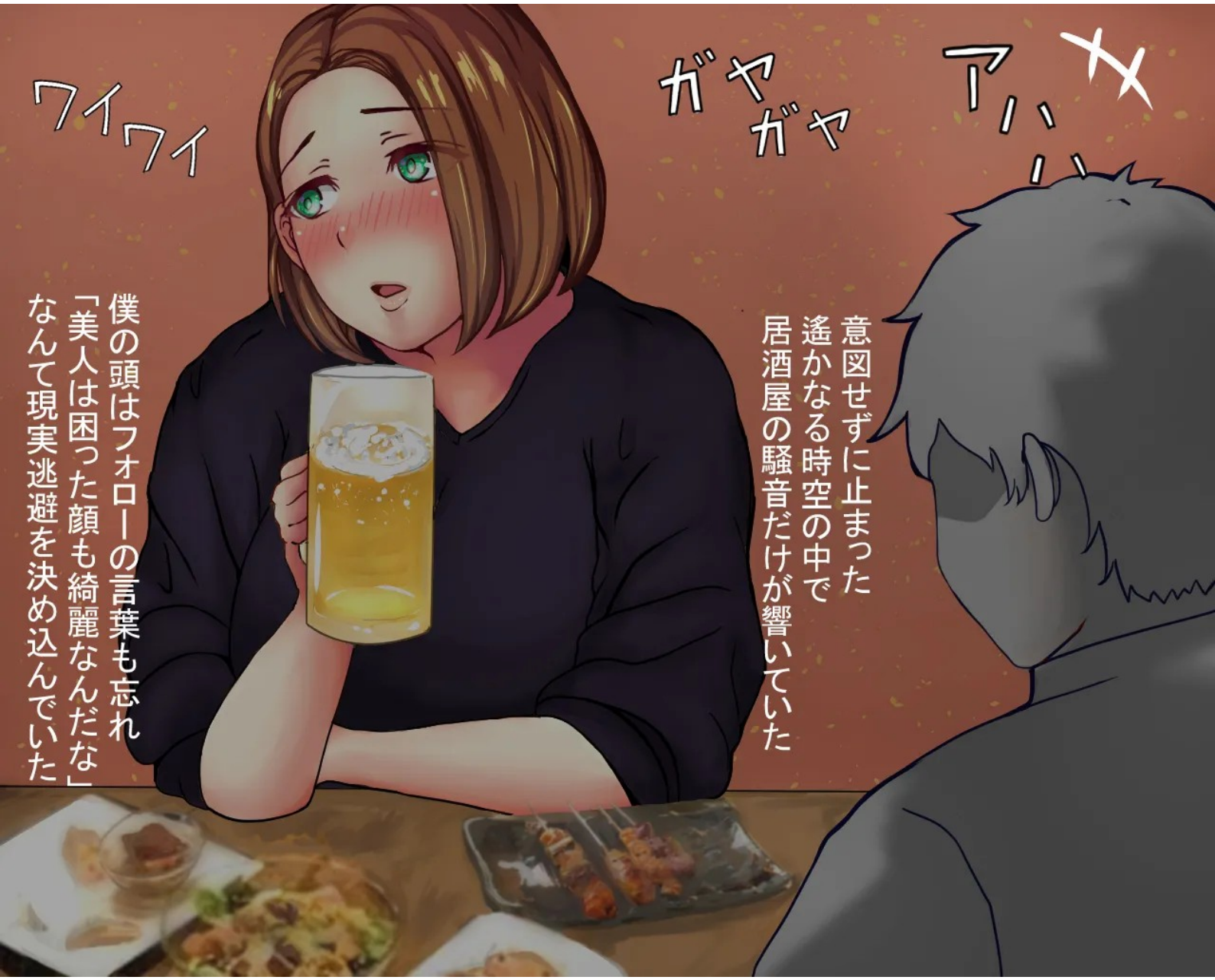
誕生日
いつだったの？
…12月31日です
大晦日じゃない！
過ぎちゃったけど
プレゼント
考えておくわね。
ありがとうございます
優しすぎる
好きだ！

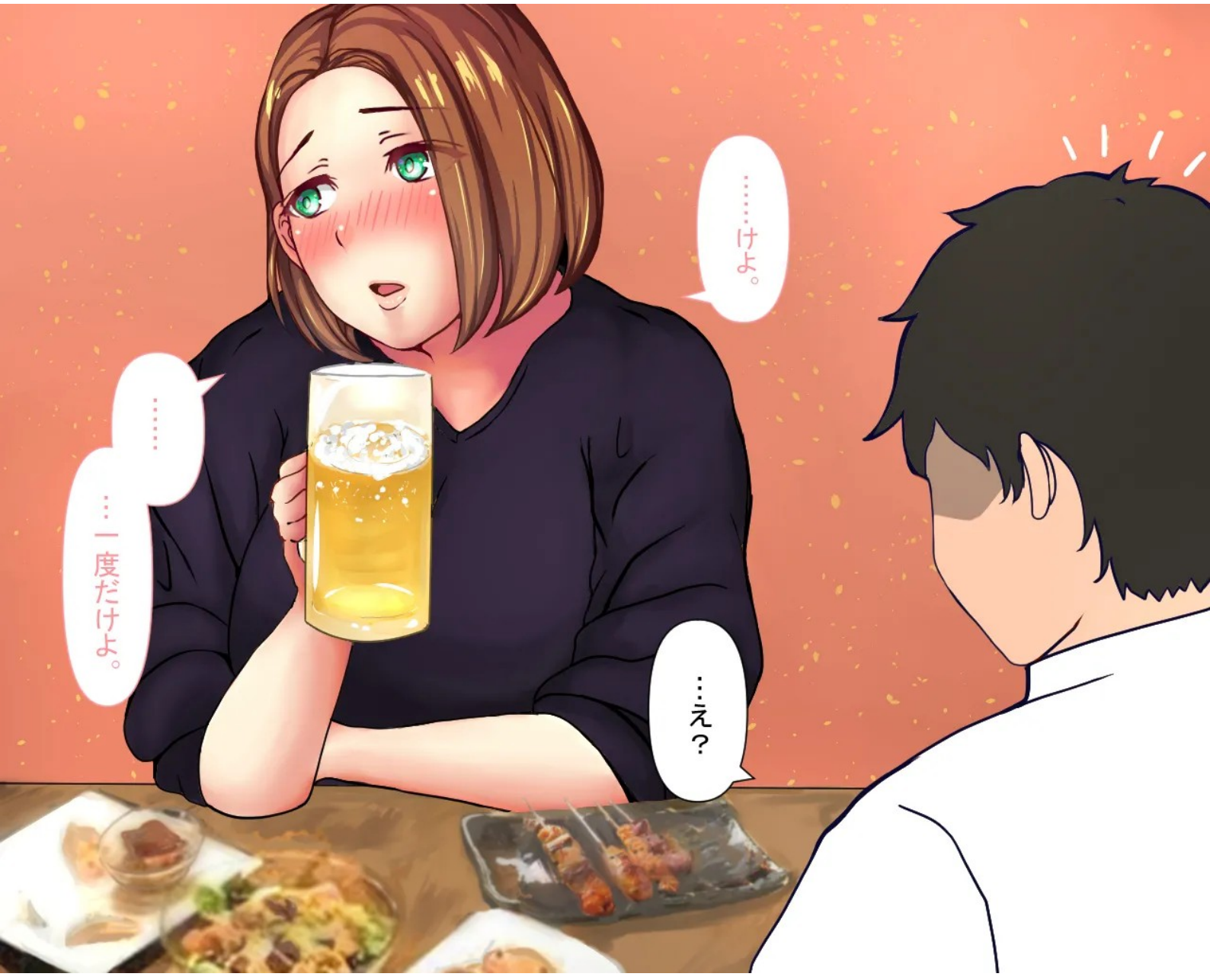

何度目かの
縁さんとの飲み
この日の僕は
かなり酔っていた。
だから
つい、あんなことを
言ってしまったのだ…。

~だからッ
初めてのセックスは
好きな人としたいんです！
縁さん大好きです！
ビクッ
カッ
プレゼントはいりません！
代わりに僕の童貞を
貰ってくださいッ！


な、なに言ってるのもう…
…そういう冗談嫌いだわ。
カアアア
冗談じゃありません。真剣ですッ！
……
尚更、困るわよ…。
……

……やって…しまっ…た…。
人妻相手になにを
言ってるんだ…。
無理に決まってるだろ…。
……
……
今までコツコツと築き上げた
関係が塔から落下し
跡形もなく粉々に砕け散る
粉砕音が聞こえた気がした


ワイワイ
ガヤガヤ
アハハ
意図せずに止まった
遙かなる時空の中で
居酒屋の騒音だけが響いていた
僕の頭はフォローの言葉も忘れ
「美人は困った顔も綺麗なんだな」
なんて現実逃避を決め込んでいた


……けよ。
…え？
……
…一度だけよ。

お酒に酔っていたのか　ただの気まぐれなのか
どちらでも良かった。
憧れの女性とセックスできる
そのことでいっぱいだった

店を出てホテルへ向かうまで
縁さんの気が変わらないように
このチャンスがなくなってしまわないように
必死に縁さんの柔らかな手を握っていた

縁さんの服の下には
エロティックな紫の下着と
下着に収まらない程の
豊満な肉体があった
明るい普段の姿からは想像できない
淫靡な姿とのギャップに
僕は今までにないほど興奮していた

その、下着は自分で脱いだほうがいいかしら…それとも…
ぼ、僕が脱がしたいです！

…ここですか？
ゆさ♥
そう、そこを摘まんで
フックを外して…
ゆさ♥
そ、そう…
じゃあ、はい…。

んっ…
ぶるんっ♡
デカッ!!
ゆ、揺れッ!
エロッッ!!
デカッ!!

は、はい。
脱がしたいです…。
…下も脱がすの？
…その、処理とかしてないから…
…あまり見ないでね…。

……
……
ファサ♥

…これが縁さんの裸

年相応に脂の乗った身体は魅力の塊だった
しっとりした肌は艶やかに輝き

釣鐘型の大きな乳房には
紅色に染まった乳輪と大粒の
乳首が突き出ていた

安産型の骨盤からは乳房以上の
大きな臀部が広がり
肉付いた太股の間には
秘部を隠すように陰毛の束が生い茂っていた

男を欲情させるために
造られたような妖艶な肉体
その身体から溢れ出る甘い女の香り
全てがオスの本能を掻き立てる

この人と今からセックスする

全身の血がドクドクと股間に流れ込み
僕のチンコは痛いほどに膨張していた

そんなに見つめられると恥ずかしいわ…。
も、もう恥ずかしいこと言わないで…。
す、すみません。その、凄く綺麗です。むちゃくちゃ興奮してます…。
……

それで…
次はどうするの…？
ドキドキ

縁さんの優しく微笑んだ一言は
僕の全てを受け入れてくれる気がした
だから…。
欲望のままに何度も彼女を求めた

全身を巡る快楽と乱れる体躯
そして恍惚に歪む美しい人
僕はこの日のことを一生
忘れないだろう。
はぁ
はぁ
はぁ
たっぷん
たっぷん
ブチュ
ブチュッ